

なりほdeれみそらし

支援プログラム（児童発達支援）

2024 年

10 月

1 日

法人（事業所）理念		どの音から始めてもどう弾いてもいい、出した音すべてが正解。その子その子の奏でる旋律を大切に、地域で共に育ち、共生する豊かな社会実現を目指します。									
支援方針		・一人ひとりのお子様の特性を見つめ、成長の課題を見極めて、健全な発達を支えています。療育の環境を整え、子どもたちの自信と意欲をもって課題に取り組めるように働きかけをします。									
営業時間		9	時	0	分から	18	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用 (詳細は、別紙の通り)									
	運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用 (詳細は、別紙の通り)									
	認知・行動	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 (詳細は、別紙の通り)									
	言語 コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び表出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用 (詳細は、別紙の通り)									
	人間関係 社会性	(a) 他者との関わり(人間関係)の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加 (詳細は、別紙の通り)									
家族支援		ご家族さまが育児に前向きになれるような支援をおこなうことで、お子さまを支える環境を整え、暮らしが安定するよう支援します。(障がいに関する情報提供・支援者からの発達状況の共有・個別相談・お子さまとのかかわりやコミュニケーションに関する相談や助言など)保護者だけではなく、兄弟姉妹に対しても精神的フォローや関わりの指導をおこないます。					移行支援		すべてのお子さまが共に成長できるように、可能な限り地域の保育・教育を受けられるようにするとともに、同年代のお子さまとのかかわりをつくっていきます。地域と連携を取ることで障がいのあるお子さまが施設を卒業後も社会で安心して生活できるように支援していきます。		
地域支援・地域連携		保育施設・医療機関・市区町村・児童相談所・保健所などの関係機関と連携を取り、地域の子育て環境を整えていきます。地域と連携を取ることでお子さまが社会で安心して生活できるように支援していきます。					職員の質の向上		年間計画に基づき、各種研修・訓練・会議に、全職員が参加できるように計画しています。職員の専門性の向上をめざすため、内部外部問わず積極的に研修や講演等に参加し、質の向上を測ります。多種多様な研修やメソッド学習で経験年数が浅い職員の能力向上を測っています。		
主な行事等											

健康・生活

ねらい (a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的な生活スキルの獲得

支援内容 (a) 健康状態の把握

健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。

(b) 健康の増進

睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自助具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。

(c) リハビリテーションの実施

日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。

(d) 基本的な生活スキルの獲得

身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。

(e) 構造化等により生活環境を整える

生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。



健康状態の維持や改善、基本的な生活スキルの習得、ADLスキル獲得を支援します

基本的な生活スキル（食事、着替え、トイレでの排泄、身の回りの清潔など）を身につけるために、出来ないところや苦手なことをお子さまひとりひとりに合わせて援助をします。遊びの中や日常生活での学習機会を利用した支援、環境配慮を行います。ご家族と連携を取り、生活リズム・動作が整うように環境を整えていきます。

運動・感覚

ねらい (a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用

支援内容 (a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上

日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。

(b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用

姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるように支援する。

(c) 身体の移動能力の向上

自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。

(d) 保有する感覚の活用

保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。

(e) 感覚の補助及び代行手段の活用

保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。

(e) 感覚の補助及び代行手段の活用

保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。

(f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応

感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。



さまざまな身体の感覚や感触を刺激し、運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感などの発達を促します。

姿勢の保持や運動能力の向上をサポートします。筋肉をつけることやバランス感覚、空間認知力などの感覚を育むために、運動や作業を通して楽しく適切な刺激します。体の感覚は、力加減や動きをコントロールするだけでなく、気持ちやテンションのコントロールに役立ちます。風船・ボール投げやお絵描き、シール貼りなどの遊びを通して体全体の動きから指先の細かい動きまで、発達に合わせて楽しく学んでいきます。

認知・行動

ねらい (a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間、数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

支援内容 (a) 感覚や認知の活用

視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。

(b) 知覚から行動への認知過程の発達

環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。

(c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成

物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。

(d) 数量、大小、色等の習得

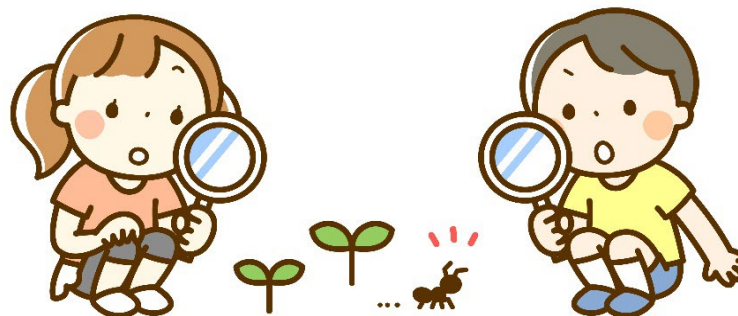
数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。

(e) 認知の偏りへの対応

認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。

(f) 行動障害への予防及び対応

感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。



空間や物の概念形成を促し、適切な距離や行動の習得を支援します

視覚や聴覚、触覚などの感覚を利用して必要な情報を得られるように認知機能の向上を目指します。目の前にある情報を得るだけでなく、情報を生かして次にどのように行動したらよいのかを自分で考える必要があります。物の形、大小、重さ、色、数量、音など、数量や時間などは特に理解するのが難しいので、絵や写真など視覚、実際に触って感じる触覚など様々な感覚にアプローチしていきます。さまざまな媒体を使用してお子さまが理解できるようにサポートしていきます。認知機能に障害がある場合は、こだわりが強く出やすい・偏食があるなど、生活を送るうえで問題となる行動がみられることもあります。認知機能の向上を手助けし、行動障害の予防をしていきます。

言語・コミュニケーション

ねらい (a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び表出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用

支援内容 (a) 言語の形成と活用

具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。

(b) 受容言語と表出言語の支援

話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。

(c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得

個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。

(d) 指差し、身振り、サイン等の活用

指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。

(e) 読み書き能力の向上のための支援

発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。

(f) コミュニケーション機器の活用

各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。

(g) 手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。



要求・模倣・注目・追視など、円滑なコミュニケーションスキルの獲得を促します。

自分の思いを伝えることが難しいと、ストレスがたまってしまい、癇癪につながる・物や人に当たってしまうなどの行動につながりやすくなります。伝え方を学ぶことで行動障害を予防します。自分の思いを伝えられるように発語のサポートをしていくとともに、相手の話す言葉・思いを理解できるようにサポートしていきます。言葉だけでなく、ジェスチャーや絵カードなど、お子様に合った方法で支援していきます。

人間関係・社会性

ねらい (a) 他者との関わり(人間関係)の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加

支援内容 (a) アタッチメント(愛着行動)の形成

人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。

(b) 模倣行動の支援

遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。

(c) 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援

感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

(d) 一人遊びから協同遊びへの支援

周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。

(e) 自己の理解とコントロールのための支援

大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。

(f) 集団への参加への支援

集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。



順番や役割、ルール、感情のコントロールなど社会生活に適応するために必要なスキルの獲得を支援します。

ソーシャルスキル(SST)の習得を目指します。人間関係を良好に保つために、他者とのかかわり・集団行動にアプローチした支援をします。生活していく上で、集団生活の中に入ることは不可欠です。集団の中で、挨拶、ルール、マナー、礼儀、感謝、謝罪などの社会生活を円滑に送るためのスキルを身に付けていきます。集団にある人間関係(協力・対立・利害・友だち・上下など)の中で、相手も自分も大切にしたい行動を選択できるように支援します。ストレスが強い状態の時には、お子様のペースに合わせてストレスを発散できるよう支援します。